

○那須烏山市の重点 ◇本校の今年度の努力点 ※本校の具体策

評価【A:十分達成できた B:概ね達成できた C:課題がある】

項目	重点目標・具体策	キーワード	取組状況 成果(○)・課題(●)	評価	改善策	学校運営協議会委員(評価者)の意見等
学校運営	教育課程	カリキュラム マネジメント PDCAサイクル 社会に開かれた教育課程 教科等横断的な視点	○創立150周年記念事業は、同窓会や地域の方と協力して実施し、思い出に残る活動にすることができた。 ○教育課程については、予備時数を見直し5時間授業の日を週1日増やしたことで、校内研修や教材研究の時間を確保することができた。 ●ふるさとを学ぶ活動を継続するために、総合的な学習の時間の年間指導計画の見直しが必要である。	A	・来年度についても、適切な授業時数が設定できるよう、教育課程を工夫する。 ・総合的な学習の時間の年間指導計画に、ふるさとを学ぶ活動を系統的に位置付ける。	・創立150周年記念事業は、市民にも喜んでもらえる事業として実施できた。特にバレーには、多くの市民が集まってくれた。子どもたちが、ふるさとのよさに気付いたり見直したりするきっかけになったのではないかと。 ・教育課程については、教員の働き方改革も考慮し、適切に実施してほしい。
	組織運営	サービスの徹底 適材適所 研修の充実 働き方改革	○各学年に副担任が配置されていることで、児童に細やかな対応ができるとともに、学級業務の分担にもつながった。 ●校務分掌に偏りが感じられる。	B	・主任一人で業務を行うのではなく、分掌内で分担し、チームで取り組むようにする。	・組織運営では、主任をサポートする体制作りが大切である。これからも、「チーム」の意識をもって取り組んでほしい。
	環境整備	施設利用 安全点検 教室配置	○無言清掃を意識しながら、班長を中心に時間いっぱい取り組んでいる班が多い。 ●班によって清掃の取組に差が見られる。 ○清掃が週3回になったことで、清潔に保たれている。 ●夏季は、除草活動の機会を増やすようにしたい。	A	・清掃場所ごとの清掃マニュアルを作成し、手順や分担を明確にして、進んで清掃に取り組めるようにする。 ・校庭の状況を見て、除草の回数を増やす。	・敷地の広さを考えると、除草は地域の人材に依頼できるようにするとよいのではないかと。

○那須烏山市の重点 ◇本校の今年度の努力点 ※本校の具体策

評価【A:十分達成できた B:概ね達成できた C:課題がある】

項目	重点目標・具体策	キーワード	取組状況 成果(○)・課題(●)	評価	改善策	学校運営協議会委員(評価者)の意見等
学校運営	<p>○地域連携教員を要として、地域とともにある学校づくりに努める。 ◇創立150周年を祝い、地域の人と協働し、ふるさとを学ぶ活動の推進 ※ABC/R運動の推進 ※地域とともに見守る登下校時の交通安全指導の徹底 ※コミュニティ・スクールにおける地域との連携の充実 ※地域の方と協働し、ふるさとを学ぶ時間の工夫</p>	地域とともにある学校 コミュニティ・スクール 地域コーディネーター	<p>○創立150周年にあたり、地域やPTAの方々と協働して行う活動を充実することができた。(生活科、社会科、理科、総合的な学習の時間、ふれあい活動等)</p> <p>○登校指導に携わってくださっている地域や保護者の方が多くなってきた。</p> <p>●下校時の見守りについては、地域や保護者の方に協力をいただくことが難しい。</p>	A	<p>・地域連携教員がコーディネーターと連携し、学習効果と教員の負担軽減の視点から、外部人材の活用を推進していく。</p> <p>・下校時の見守りへの協力を引き続き呼びかけていく。</p>	<p>・創立150周年をきっかけに、地域の人々の協力が得られたことはありがたい。今後も連携を進めてほしい。</p> <p>・児童の登校時に保護者等が「コミスク」のたすきをして、同行したり交差点に立ったりして下さっている。下校時の見守りについても、協力が得られるとよい。およその下校時刻が分かると協力しやすいのではないか。</p>
知の教育	<p>○学ぶ意欲を引き出し、主体的に学ぶ児童生徒の育成に努める。 ◇主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進 ※「烏小スタイルⅡ(認知能力向上、自由進度型学習)」の授業の推進 ※一人一人の教育的ニーズに応じた指導の工夫</p>	主体的・対話的・深い学び	<p>○学校課題である自由進度型学習については、提案授業や一人1授業の実践を通して教員の理解が深まった。課題に意欲的に取り組む児童が増えた。</p> <p>○算数では、少人数授業やT・Tを充実したことで、児童が「できた。」「分かった。」と実感することができた。</p> <p>●自主学習への取組は、個人差が見られる。</p>	B	<p>・来年度も学校課題に合わせて、研修のもち方を工夫して取り組む。</p> <p>・自主学習の取組例を紹介するとともに、宿題の量と出し方を検討する。</p>	<p>・学校課題の自由進度型学習で、多様に学ぶ機会が与えられたことは、児童にとってよかったのではないかと。</p>
情報教育	<p>○一人一台の情報端末の有効活用に努める。 ◇主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進 ※「まなびPC」を活用した情報活用能力の育成</p>	プログラミング教育 情報活用能力 教員のICT活用指導力の向上	<p>○「まなびPC」の操作に教員も児童も慣れ、有効活用を進めることができた。</p> <p>●昨年度のような「まなびPC」に関する研修が実施できなかった。</p>	A	<p>・年度初めに「まなびPC」の基本的な使い方の共通理解を図る。「クラスルーム」に活用法などの情報を載せ、共有できるようにする。</p>	<p>・「まなびPC」は、家庭学習でも活用されている。主に、ドリルの問題を解いたり何かを調べたりするのに使用しているようだが、さらに発展的な活用ができるよう研修を進めてほしい。</p>

○那須烏山市の重点 ◇本校の今年度の努力点 ※本校の具体策

評価【A:十分達成できた B:概ね達成できた C:課題がある】

項目	重点目標・具体策	キーワード	取組状況 成果(○)・課題(●)	評価	改善策	学校運営協議会委員(評価者)の意見等
知の教育 国際教育	○英語に触れ、世界を学ぶことで、豊かなコミュニケーション能力の育成に努める。	SDG's 異文化理解 英語コミュニケーション	○英語専科教員とALTが楽しく授業を行い、児童が外国語の授業に意欲的に取り組んでいる。 ○「まなびPC」を活用して、オンライン英会話を実施し、学んだ英会話を使って、様々な国のALTと会話することができた。よい体験となった。 ○1学期にイギリスから2家族3名が、10日間体験入学で在校した。児童は、知っている英語を使ってコミュニケーションを図っていた。	B	・英語の活動が充実するよう、学級担任が必要に応じて児童の実態を英語専科教員に伝える。	・専門性の高い英語専科教員とALTが協力して授業をしていることで、児童が英語で楽しくコミュニケーションをとうろうとしているのはありがたい。
心の教育 児童・生徒指導	○自己指導能力の育成を図り、課題を解決できる児童生徒の育成に努める。 ◇発達の段階を踏まえた道徳教育の充実 ◇互いを尊重し合い居がいのある楽しい仲間づくり ◇将来を考え、夢に向かって努力する態度を育成するキャリア教育の推進 ※ABC/R運動の推進 ※意見をしっかりと持ち、議論し合う道徳の授業の推進 ※遊びを通し、心を磨き合う仲間づくり	いじめ 不登校 自己指導能力 キャリア教育	○問題が起こった時に、児童指導主任を中心に、組織的な対応をすることができた。 ○昼休み等、教員も積極的に児童と遊び、ルールを守って仲よく遊べるよう支援した。 ●児童アンケートでの「自分の意見をしっかりと話すことができる。」の設問に対し、4分の1の児童が否定的な回答をしている。	B	・道徳の授業や学級活動の話合い活動等で、ペアやグループで話し合う場面を設け、児童が自信をもって自分の考えを言えるよう支援する。	・教員が休み時間に一緒に遊ぶことで、安全面や児童同士の人間関係作り等効果があると思われる。今後も継続してほしい。
心の教育 特別支援教育	○共生社会に向け、自分の意見を持ち、他者の意見を認め合う雰囲気づくりに努める。 ◇インクルーシブ教育の実現に努める特別支援教育の充実 ※特別支援学級と通常学級との交流学习の推進	インクルーシブ ユニバーサルデザイン 合理的配慮 自立活動	○支援学級と通常学級の担任同士で情報交換をし、児童が安心して交流学习に参加できるよう配慮している。 ○支援学級の児童に対し、温かく教室に迎えたり、一緒に遊んだりする児童が多い。 ●外国籍の児童に対して、差別的な発言があった。	A	・児童の特性を考慮し、行事の時の座席を配慮したり、配慮事項の共通理解を図ったりする。 ・誰に対しても差別的な言動がないよう、人権教育の視点からも指導を継続する。(学級活動、週目標等)	・近年、外国籍の児童が増えてきている。文化や生活習慣の違いもあるだろうが、互いに理解し合って学校生活を送れるよう支援してほしい。

○那須烏山市の重点 ◇本校の今年度の努力点 ※本校の具体策

評価【A:十分達成できた B:概ね達成できた C:課題がある】

項目	重点目標・具体策	キーワード	取組状況 成果(○)・課題(●)	評価	改善策	学校運営協議会委員(評価者)の意見等
命の教育	健康教育	保健教育 保健管理	○あたごタイムや昼休みなど、積極的に外で遊んでいる児童が多い。 ○「持久走週間」や「なわとび週間」の時は、頑張りカードにより、児童がめあてをもって活動に取り組めた。 ●一部、外遊びをせずに室内で過ごす児童も見られる。	A	・クラス遊びや縦割り班活動を行い、児童が外遊びをする機会を増やす。	・運動については、個人差も見られるので、「距離を短くする。」「回数を減らす。」など、苦手な子でも自分に合った目標をもって楽しく取り組めるよう工夫してほしい。
	安全教育	学校安全の徹底・充実 危機管理 生活・交通・災害安全	○関係機関の協力を得て、各種避難訓練を実施し、安全に関する指導を具体的にを行うことができた。 ●徒歩での下校では、道路の1列歩行や横断歩道での左右確認などがよくできていない班が見られる。	B	・登校班会議で指導するとともに、教員による同行指導や巡視を行う。	・日本各地で様々な災害が起きている。来年度は、引き渡し訓練を実施する年なので、災害時の行動について保護者と確認してほしい。
	食に関する指導	給食管理 アレルギー	○食物アレルギーをもつ児童への対応が、確実にできた。 ●栄養摂取の面から給食を均一に配膳しているが、残量が多くなっている。	A	・苦手な物でも、一口は食べるよう指導を継続し、励ましていく。	・成長に必要な栄養を摂取できるよう、苦手な物も少しずつ食べることができるようになるとよい。その際、個に応じた配慮をしながら支援を進めてほしい。